

専修、石巻専修、校友会 はいかに動くか



尾池 守
石巻専修大学長

小宮多喜次
専修大学校友会会長

佐々木重人
専修大学長

日高義博
学校法人専修大学理事長

設立当初から質が 高かった校友会

——新春号の恒例となりますトップ座談会にお集まりいただき、ありがとうございます。まずは、今年の意気込みなどをお願い致します。

日高●新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り致します。今年は、創立138年目となり、いよいよ140周年が間近に迫ってまいりました。140周年事業にむけて計画さ

れている新校舎建設や新学部の設置、商学部の神田移転など、さまざまな行事の基礎を固める年となります。今年の進捗によっては完成に届かないかもしれないという大事な年となりますので、さまざまな方面からのご支援、ご尽力をお願いしたいと思います。

佐々木●明けましておめでとうございます。日高理事長がおっしゃっていましたように、今年は140周年に向けた重要な年であり、前期中には学部の新カリキュラムの原案など、具体的な姿

があらわれてまいります。また、4月には震災で被災した建物が、新しい教育システムを前提にした機能を持つ2号館、3号館として稼働するなど、今までとは違う専修大学の教育のあり方を学生諸君にも感じていただける年になると期待しています。

140周年事業は、前学長である矢野建一先生が、非常に意を注いでこられた経緯があり、私もその気持ちを継いで、精一杯取り組んでいく所存です。

尾池●明けましておめでとうございます

専修大学創立140周年がそこまで近づいてきた2017年は、校友会にとって130周年を迎える年でもあります。

このような重要な一年をいかに送ろうと考えているのか？

専修大学、石巻専修大学、校友会それぞれのトップに集まっていただき、硬軟織り交ぜながら語り合っていました。

す。石巻専修大学では、震災をきっかけに誕生した人間学部から、この3月に初めての卒業生を送り出すことができます。とても喜ばしいことと思っております。

しかし、大学をとりまく環境は、人口減少など厳しいものがあり、地方にある大学にとってその深刻度は切実なものがあります。そのため、理工学部、経営学部、人間学部をいかに盤石な基盤にしていくかが、我々の課題だととらえ、現在、カリキュラムの見直しを進めているところです。

小宮●新年明けましておめでとうございます

います。昨年を振り返りますと、熊本や鳥取の地震や阿蘇山の噴火、台風10号による集中豪雨など、さまざまな自然災害がありました。今年はぜひ、災害のない安全で平穏な年になるように願っております。

また、2017年、校友会は、創立130周年を迎えますので、これを契機に、校友の皆さんと共に一層充実した校友会活動を目指していきたいと思っております。

日高●昨年の10月にたばこと塩の博物館で『目賀田種太郎展』を開催したとき、明治13年から25、26年までの資



料について調べたんです。すると、校友会の話が出てきました。最初は、専修学校同窓会といったのです。明治20年から2年に1回、会報誌が発行されていました。それだけでも歴史の長さを十分感じたのですが、当時の卒業生の経歴を見て、あらためてレベルの高さに驚かされました。校友の3分の2くらいが判事や検事に任官していて、弁護士や学校の先生、企業のトップリーダーの名前も普通会員として書いてありました。その年に裁判官任用試験に合格した人たちの氏名が十数名載っていて、その人たちは特別会員とありましたね。

非常に質の高い校友会として歴史を刻んできたことを知り、佐々木先生と私、尾池先生が良い人材をたくさん卒業させて、校友会の小宮会長のところへ送ることが、これからの大きな仕事だと改めて認識した次第です。

小宮●現在も、校友会には多くの企業トップがいますが、昔からレベルの高い校友を輩出してきた大学だということに誇りを持つべきですね。

私は、校友会会長として、さまざまな会に参加させていただいています。全国各地の支部総会や校友会主催のゴルフ大会、昨年は馳浩さんの出版記念会にもお邪魔させていただいたりしました。そのような機会をいただくたび話

